

第10編

科目外活動の思い出



1. 式典

入学式

<式次第>

開式

国歌斉唱

新入生氏名点呼

役員・来賓紹介

学校長式辞

来賓祝辞

新入生宣誓

花束贈呈

校歌斉唱

閉式



戴帽式

校舎が病院敷地内にあった頃は、同総会館 4階ホールで戴帽式が行われてきた。(同窓会館 4階ホールは 2010 年 3 月 11 日の東日本大震災以降、危険ということで使われていない。今後取り壊される予定である。)

その後、大学の基礎新館に校舎が移転してからは、記念会館で実施されている。

実施時期は、学校開設当初から 26 回生までは 1 年次の秋に行われていたが、その後 2 年次に変更となって現在に至る。学生一人一人が、スポットライトに照らされ厳かにて戴帽を受ける瞬間は、学生にとっても見る者にとっても感動を与える。

平成 26 年度 6 月の戴帽式が専門学校として最後の戴帽式となる。



<式次第>

開式

学校長式辞

戴帽の儀

ナイチンゲール誓詞

来賓祝辞

花束贈呈

校歌斉唱

閉式



かつては式終了後、保護者や先輩を交えて懇親会が行われていた時があった。

ご遺骨返還式

近年の1年前期科目『人体の形態・機能 I』では、人体構造学講座の伊藤正裕主任教授をはじめ諸先生方にご協力を頂き、講義の間に解剖見学実習を4日間(各半日ずつ)計画して頂いている。その時間数は、看護専門学校としては多い。その実習に於いて、ご遺体を提供して下さいました方々のご遺骨が参列されたご遺族の元に返される式がご遺骨返還式である。医学生とともに看護専門学校の1年生、大学教職員が参列する。

卒業式

<式次第>

開式

国歌斉唱

学校長式辞

卒業証書授与

成績優秀賞授与

来賓祝辞

送辞

答辞

花束贈呈

校歌斉唱

旅立ちの日に

閉式



左から杉浦・亀川・吉岡(小林)・福岡・藤腹先生

「旅立ちの日に」

小嶋 登 作詞・坂本浩美 作曲

白い光の中に 山並みは萌えて
はるかな空の果てまでも 君は飛び立つ
限りなく青い空に 心ふるわせ
自由をかける鳥よ 振り返りこともせず

勇気を翼に込めて 希望の風に乗る
この広い大空に 夢を託して

懐かしい友の声 ふとよみがえる
意味もないさかいに 泣いたあの時
心通った嬉しさに 抱き合った日よ
みんな過ぎたけれど 思い出強くだいて

勇気を翼に込めて 希望の風に乗る
この広い大空に 夢を託して

今 別れの時 飛び立とう 未来信じて
はずむ 若い力 信じて
この広い この広い 大空に

今 別れの時 飛び立とう 未来信じて
はずむ 若い力 信じて
この広い この広い 大空に

謝恩会のひとこま

右は、岩根先生が学校長をされていた時の謝恩会での教員の出し物である。

テーマは、「間違いさがし」

- ① ウエディングマーチが響き渡る中、幕(シーツ)が下ろされると、新郎新婦役の岩根・黒坂先生、牧師役の長田先生、裾もちの平田先生、祝儀袋のお金を数える事務長が登場。

音楽がなり続ける中、また、シーツで5人が隠される。



左から 長田・岩根・平田先生と渡辺事務長

- ② 再度幕(シーツ)が下りた時、新郎新婦が逆転。その他にも各自の格好や持ち物が変化している。右で隠れて見えない平田先生はド近眼眼鏡とお下げ髪になっている。因みに長田先生の服は、当時使用されていた黒いごみ袋であった。岩根先生のウエディング姿をはじめとして、それぞれの教職員の仮装に学生たちは大喜びしてくれた。



- ③ 一体どこが最初と違うかを学生たちに教員が聞いて回る。学生の一人が、「事務長さんの歯が金歯になりました」と答え、田山先生が「それは元々です」と答えた場面があり、またそこで皆が爆笑。当てた学生には、お煎餅が1枚ずつ配られた。



2. 新入生歓迎レクリエーション



新宿御苑にて



歓迎レクにて:福岡・杉浦・駒宮・藤腹先生



地引き網

新入生歓迎レクリエーションで、千葉県の海に地引き網に行ったのは、12回生から15回生の頃だったようである。地元の方に地引き網のやり方を教わり、取れた魚は近くの民宿で焼いてもらいそれをみんなで食べた。





竹馬乗り



ご飯づくり



バーベキュー

3. 国立中央青年の家合宿研修



合宿所は富士山の麓



早朝はみんなでラジオ体操 集合時間厳守



無事到着の祝いか合宿終了の祝いか？



シーツの受け取り



日中は輪を手前にして毛布とシーツをたたむ決まり



お風呂掃除



ウォークラリー



キャンドルサービス

合宿研修での学生の出し物



バレエの披露



“寛一・お宮”の寸劇と思われる 寛一役は体育の渡部先生

合宿研修での教員の出し物



三匹の子豚:左から渡部・赤嶺・石川(宮崎)先生



大久保(坂元)先生による島倉千代子“人生色々”

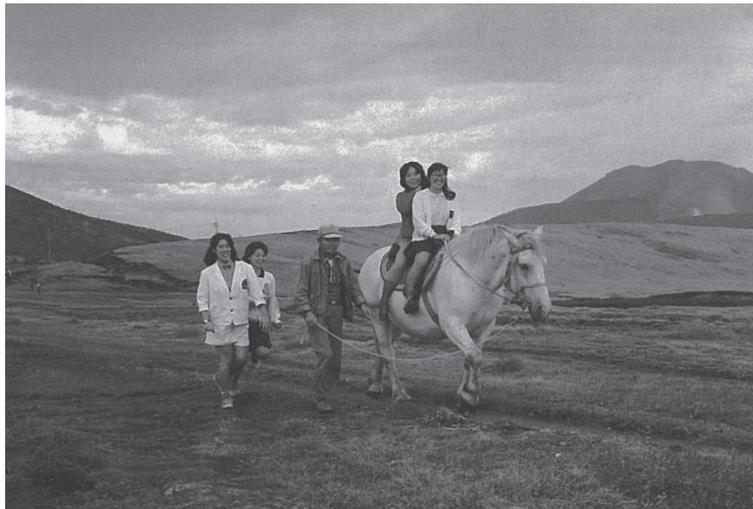


後列左から 峰村(吉田) 平田 千葉 石塚 神藤(落合) 長田 曾山(磯田) 野中(大場)
 前列左から 樋口(三島) 小坪(黒田) 石川(宮崎) 板橋(吉田) 赤嶺
 23 回生の時“花咲かじい”(昭和 61 年)



後列左から 板橋(吉田) 藤原 曾山(磯田) 河野 長田 吉岡 石塚
 前列左から 野中(大場) 神藤(落合) 平田 石川(宮崎)
 24 回生の時“かぐや姫”(昭和 62 年)

4. 修学旅行



阿蘇



高岡

5. 海外研修

アメリカ、カナダ、オーストラリア等での海外研修が、911の同時多発テロが起きるまで続いていた。大学病院やエイズ患者のための病院、小児病院や高齢者施設、看護系の大学などを見学し、ホームステイも実施していた。引率は、専任教員2名で、病院の指導係さん2名も同行した。



高齢者施設にて



高齢者施設内で飼われていた犬



オーストラリアにて

6. 特別講演

特別公演は、かつて年2回開催されていたが、近年は年1回秋に実施されている。これまで公演を依頼した主な先生方は、表1のとおりである。



村松英子先生



寺本松野先生



アルフォンス・デーケン先生



平沢彌一郎先生



宮子あずさ先生



金井一薫先生(前列中央)

表 1.特別講演 テーマ・演者一覧表

No.	年			月／日	テーマ	講演者	所属他	場所
1	1983	昭和	58	11月5日	私の生き方ー妻として、母として、職業を持つ女優としてー	村松英子	鳥取女子短期大学客員教授 女優	記念会館
2	1984	昭和	59	6月2日	終末期にある人々の看護	寺本松野	聖母病院 病棟婦長	同窓会館 4階ホール
3	1984	昭和	59	11月24日	医学の進歩と看護の役割 ーその百年ー	砂原茂一	元国立東京病院 名誉院長	同窓会館 4階ホール
4	1985	昭和	60	5月18日	生活と住民環境	小川信子	日本女子大学家政学部教授	同窓会館 4階ホール
5	1985	昭和	60	11月2日	老年期痴呆の病態	大友栄一	浴風会病院 院長	同窓会館 4階ホール
6	1986	昭和	61	6月7日	若い人へのメッセージ	別所智恵子	詩人 看護評論家	6階 臨床講堂
7	1986	昭和	61	11月1日	マザー・テレサ 愛のはたらき	千葉茂樹	映画監督	6階 臨床講堂
8	1987	昭和	62	6月27日	ストレスと心の健康	加藤正明	東京大学名誉教授	6階 臨床講堂
9	1987	昭和	62	11月14日	足の裏から覗いた現代人	平沢彌一郎	放送大学教授	6階 臨床講堂
10	1988	昭和	63	6月18日	総合保健医療における新しい職種と看護の専門性	季羽倭文子	ホスピスクア研究会設立者	同窓会館 4階ホール
11	1988	昭和	63	11月25日	終末期にある病人との関わり	寺本松野	聖母病院 病棟婦長	同窓会館 4階ホール
12	1989	平成	元	6月17日	生きている人間って何	井上英治	上智大学人間学教室教授	同窓会館 4階ホール
13	1990	平成	2	2月5日	赤ちゃんからのメッセージ	稲垣美穂子	女優 着物コンサルタント	6階 臨床講堂
14	1990	平成	2	6月18日	「学ぶ」ということ	大野功	成蹊大学文学部教授	6階 臨床講堂
15	1990	平成	2	9月6日	生と死を考える	アルフォン ス・デーケン	上智大学文学部教授	6階 臨床講堂
16	1991	平成	3	6月10日	F. ナイチンゲールの看護への貢献	金井一薫	ナイチンゲール看護研究所	6階 臨床講堂
17	1991	平成	3	9月6日	環境と健康	横山榮二	国立衛生院 次長	6階 臨床講堂
18	1992	平成	4	5月8日	ゆっくりじっくり看護を楽しむために	宮子あずさ	東京厚生年金病院 看護婦 執筆家	6階 臨床講堂
19	1992	平成	4	10月2日	看護職としての健康と生活	西村薫子	女子栄養大学客員教授	6階 臨床講堂
20	1993	平成	5	5月7日	老人看護の目ざすもの	鎌田ケイ子	東京都老人総合研究所看護学教室 主任研究員	記念会館
21	1994	平成	6	5月13日	高齢化社会と看護の時代	山崎摩耶	帝京平成短期大学社会福祉学科助 教授	6階 臨床講堂
22	1994	平成	6	10月28日	女性と職業	中村紀子	元テレビ朝日アナウンサー 日本女性エグゼクティブ協会設立者、ジャ フィ・サービス株式会社代表取締役	6階 臨床講堂

No.	年			月/日	テーマ	講演者	所属他	場所
23	1995	平成	7	5月26日	看護っておもしろいと思うーアメリカの障害児教育を通してー	レンデンマン 美智子	セントジョーンズ・コミュニティサービス・スクールナース	6階 臨床講堂
24	1996	平成	8	5月24日	生命の尊厳	高柳和江	日本医科大学医療管理教室	6階 臨床講堂
25	1996	平成	8	11月22日	企業の社会貢献活動 ー企業とボランティア活動ー	片江啓訓	三菱商事社会環境室	6階 臨床講堂
26	1997	平成	9		それは乳癌から生まれた	新野まりあ	ハロートゥモロー代表(人工乳房製作所)	6階 臨床講堂
30	1999	平成	11		いのちが見えない	本多静芳	浄土真宗本願寺派萬行住職 武蔵野女子大学助教授	6階 臨床講堂
32	2000	平成	12	11月9日	21世紀の看護者に期待すること	杉浦亮子	東京医科大学病院前看護部長	6階 臨床講堂
33	2001	平成	13	11月8日	僕たちの距離感	桜屋伝衛門		6階 臨床講堂
34	2002	平成	14	11月5日	看護職のための子どもの虐待概論 ケースを通して対応を探る	坂井聖二	社会福祉法人子どもの虐待防止センター理事	6階 臨床講堂
35	2003	平成	15	10月16日	体験から語る看護の方向性	横田喜久恵	医療法人慶成会 老年看護研究会	6階 臨床講堂
36	2004	平成	16	11月15日	自分の可能性を求めて	成田真由美	パラリンピック金メダリスト	6階 臨床講堂
37	2005	平成	17	10月12日	看護師とは? 国境なき医師団での仕事を通して考えたこと	久村恵巨	2004～2005年国境なき医師団 Kenia Marsabitでのミッションに参加	6階 臨床講堂
38	2006	平成	18	10月12日	住み慣れた地域で生活するための医療の在り方	野中博	医療法人博腎会 野中医院院長	6階 臨床講堂
39	2007	平成	19	10月9日	日本という国に住んで 私の29年間の日本	ジュリアン・ヨーク		6階 臨床講堂
40	2008	平成	20	11月17日	自らを輝かせて 豊かな未来へ	小路美喜子	慈恵大学 看護管理業務担当理事	6階 臨床講堂
41	2009	平成	21	10月14日	妊婦として、助産師さんからもらったものから看護師のプロらなる人に望むこと	河合 蘭	REBORN代表	6階 臨床講堂
42	2010	平成	22	10月13日	これからの看護 『看護のアジェンダ』より	井部俊子	聖路加看護大学 学長	6階 臨床講堂
43	2011	平成	23	10月14日	実像としてのナンチンゲールとナイチンゲール看護論の真髄	金井一薫	東京有明医療大学看護学部看護学科 看護学部長	6階 臨床講堂
44	2012	平成	24	11月6日	移植医療の現状と患者・家族の体験談 そして私たちができること	高橋和子	日本移植支援協会理事長	6階 臨床講堂
45	2013	平成	25	10月4日	未定	西 研	東京医科大学 哲学教室 主任教授	6階 臨床講堂



講演後、レンデンマン・美智子先生と話す学生達

7.クラブ活動 ※ここに掲載した以外にも様々なクラブが存在しましたが、全てを掲載できませんでした。ご了承下さい。

手話クラブの思い出

東京医科大学看護専門学校 元専任教員
元手話クラブ顧問 大久保(坂元) きみ子

私が手話を始めるきっかけは兄妹が中途失聴になった事です。手話と向き合ったのは手話教室に通った20代初期。昭和57年、縁あって東京医大看護専門学校に入職した年に18回生の「手話クラブを作りたい」という言葉がきっかけで20名程度の仲間が集まり、毎週土曜日に活動を開始しました。



坂元先生を囲んで(前列中央)

テキストを作り、指文字や手話表現を覚え、自己紹介や簡単な日常会話、手話で歌も歌い、サークル内でおそろいのポロシャツも作り、活動時にはそれを着てゲームも楽しみました。ろう者を講師に迎え、手話らしい手話も覚え、充実のひとつときでした。

東医祭では毎年、日頃の成果を披露すべく手話劇も加え好評を得ました。未だに忘れられないのが『さるかに合戦』と『シンデレラ姫』の手話劇です。学生も一緒に振付けを考え、何度も何度も稽古し、本番ではまるで女優のように演じていたのが印象的でした。また実習等で忙しいにもかかわらず、新宿区の手話サークルにも出かけ、聴障者との交流も行いました。手話サークル『アヒルの会』は私が退職したあとも黒坂先生を顧問として自主的に活動を続けていたと聞いた時はその志の高さにとても感動しました。

聴覚障害者が受診する際、何と言ってもコミュニケーションが一番の問題です。一般的には手話通訳者が同行します。しかし、医師は早口で表情に乏しく、話の内容も耳の不自由な患者にとっては分かりにくい専門用語が多いのです。かつて私の妹は東京医大病院にお世話になり、その時『あひるの会』で一緒だった仲間にも声をかけられ、安心して受診できたと言っていました。障害の有無にかかわらず、医師の言葉が理解できない事は不安を助長するようです。医療の現場こそ、コミュニケーションが重要です。身振り手振りでも『伝えたい』という気持ちが大切なのです。

看護学校は50年間の歴史に幕を下ろし、大学教育へと転換の記念すべき旅立ちの年です。私も今年還暦を迎えます。これからが自分の人生！自分の時間。私は今、母の介護をしながら日常生活の中で手話を必要とする人の為の手話通訳者を目指して勉強中です。

東京医科大学看護専門学校で出会ったすべての皆様に感謝すると共にこれからの東京医科大学の発展を心よりお祈り申し上げます。



東医祭で手話を披露するメンバー

児童研究会（児研）活動の思い出

元東京医科大学看護専門学校 専任教員

折元(品田) 美雪(第 23 回生)

学生時代から早いもので、四半世紀を超える月日が経ちます。地方から出てきて間もない頃の不安な時から大きな力となり、卒業後に臨床で働いている時、現在に至っても児研の繋がり、先輩後輩、仲間との関係はことあるごと思いおこされる、私にとってのかけがえのない存在です。



当時、私の在籍していた児研は、医学部、看護学共に各学年 3～6 名程度の部員がいました。部活は人形作りに精を出し、東医際では近所の子供たちの集まる中、練習に明け暮れた人形劇を緊張しながらお披露目していたことを今でも鮮明に覚えています。本栖湖での春の新生歓迎合宿、ヘモフィリアサマーキャンプや、夏休みには五島列島の離島（長崎）、本州最北端（青森）の無医村での合宿に参加した記憶があります。朝のラジオ体操から始まり、健康チェックや人形劇、疾患と共に生きる子供たちも含めて一緒に行く飯盒炊飯、カレーライス作りなど、様々な活動をしていました。当時は携帯電話やゲームなども殆どなく、東京の学校から来た見かけないお兄さんお姉さんということで、興味津々の子供達とはすぐに打ち解け、お借りした公民館を宿泊所として、離島では村民のご自宅のお風呂を頂くこともありました。子供達との関係の良さもさらに地域の方との交流をスムーズにして、10 日程度の夏合宿は充実した一時でした。当時、小学生だった離島でお風呂をお借りしたお宅の子と、その子が大学に行くまでの間、文通が続いたことも良い思い出です。

先輩後輩という縦割りと、医学部も含めた同学年同士の絆では、人間関係のノウハウを教わったように感じます。大変だったことよりも楽しかった思い出の方が断然多い 3 年間になり、その後の自分の人生に大きく役立っているように思います。相談できる心強い先輩との関係作り、また、先輩として後輩を気遣い、しっかりしなくてはという一丁前な思いも抱かせてくれました。

現在も児研 OB の中には、東京医大に残り医療の最先端でバリバリと仕事をしている方が沢山います。それが励みにもなり、これからも共にそれぞれの場で頑張っていければと思います。最後に、この輝かしい開校 50 周年の歴史の一部として、自分が存在できることを心から誇りに思います。



児童研究会(28 回生)

社会医学研究会の思い出

三島(芹ヶ野) 真名美(第24回生)

創立50周年おめでとうございます。記念号に部活紹介を、というお話でしたので、当時のことを書きたいと思います。「社会医学研究会」、略して社医研。何やら堅そうな名前のクラブですよ。今考えても何故、入部を決めたのかはわかりません(笑)。たぶん、夏休みに合宿が出来るという単純な理由と、先輩の印象だったと思います。社医研と聞かれて思い出すのは部室と夏合宿です。校門横の守衛室の2階が部室でした。建て付けの悪いドアをあけると、部屋に見合わない大きなテーブル。周りには頭の上も椅子の下も資料だらけ、雑然とした部屋です。そんな部屋でも何故か居心地が良く、長い時間を過ごしたことを覚えています。いつ行っても誰かしらが部屋にいて、くだらない話をして笑ったり、悩み事を聞いてもらったり、勉強したり。あの空間で過ごした時間は大切な宝物です。夏合宿はクラブ活動の大きな柱の一つでした。無医村の地域に滞在して健康調査などを行うのです。一年目は長野県の浪合村。近くの医療機関まで救急車でも40分はかかる山間の村です。看護学生は先輩と二人一組になって家庭訪問を行うのですが、行ってビックリ。担当の地域にぼんと車で降ろされ、地図を勝手に目的の家を探すのですが、なかなか見つからない。とにかく広い!!人に聞こうにも人が歩いていない……。やっとの思いで辿り着いても緊張で上手く話も出来ない。隣で血圧を測りながら上手に話をしている先輩がまぶしく見えました。明日は先輩の様にやってみよう、毎晩の様に反省していました。二年目からは場所を東京都式根島に移すことになりました。大型客船で東京から約8~11時間の距離です。こちら島にたどり着けないなんて事もありました。残念ながら社医研はなくなってしまいましたが、私にとっては本当に楽しい3年間でした。



合気道部(28回生)



看護バスケット(21回生)



剣道と少林寺(28・21回生)



ワンダーフォーゲル(24回生)

すけっと部

高橋 啓太(第 49 回生)

“すけっと部”は現在わが校で唯一の部活動であり、主にボランティア活動を行っている。施設などに赴いてそこで必要な“助っ人”を行うという意味から“すけっと部”という名になった。ヘルパーをしていた僕が以前からお世話になっているデイサービスなどの高齢者施設や、障がい児とされる子どもたちのもとを訪れ、一緒に歌を歌ったりイベントのお手伝いを担ったり、様々な形で楽しみを共有している。結成して一年。期間は短い、この一年の活動は奇跡と思えるほどに充実していたと思う。



デイサービスからは定期的にお招きを頂き、皆で童謡を歌いに通っている。楽器が得意なメンバーはギターやバイオリン、フルートなどを持参し演奏をしている。幼い頃よく口ずさんだ歌を、世代を超えて懐かしみながら笑ったり涙したりして、皆で音楽を楽しんでいる。他にもバザーのお手伝い、夏はプールなどを通じて子どもたちともたくさん遊んだ。イベントも次々に決まり、区の大きなクリスマス会の運営や、子どもたちとファミリー駅伝に参加したり、思い出はどんどん増えている。

今、僕は“出会い”の大切さを実感している。デイサービスの方々や子どもたち、お母さん方。様々な人生と直接関わりあう中でたくさんのことを学ばせて頂いた。すけっと部を通じて、学生たちが外へ出てたくさんの方と実際に関わり、お互いに感動や経験といった宝物を得られることは、とても素晴らしいことだと思う。

本校は50回生の卒業と共に終焉を迎える。僕らもじきに卒業する。大切なことは今いる皆と今あるご縁を充実させることだと思う。学校や部活という形はなくなっても、関わりを持った仲間や先生方、すけっと部を通じて出会った方々とのご縁は失われたりしないと思う。



障がい児施設でのクリスマス会にて(平成 24 年 12 月)

8. 東医祭



お茶をたてる茶道部



病院食展示(昭和42年)



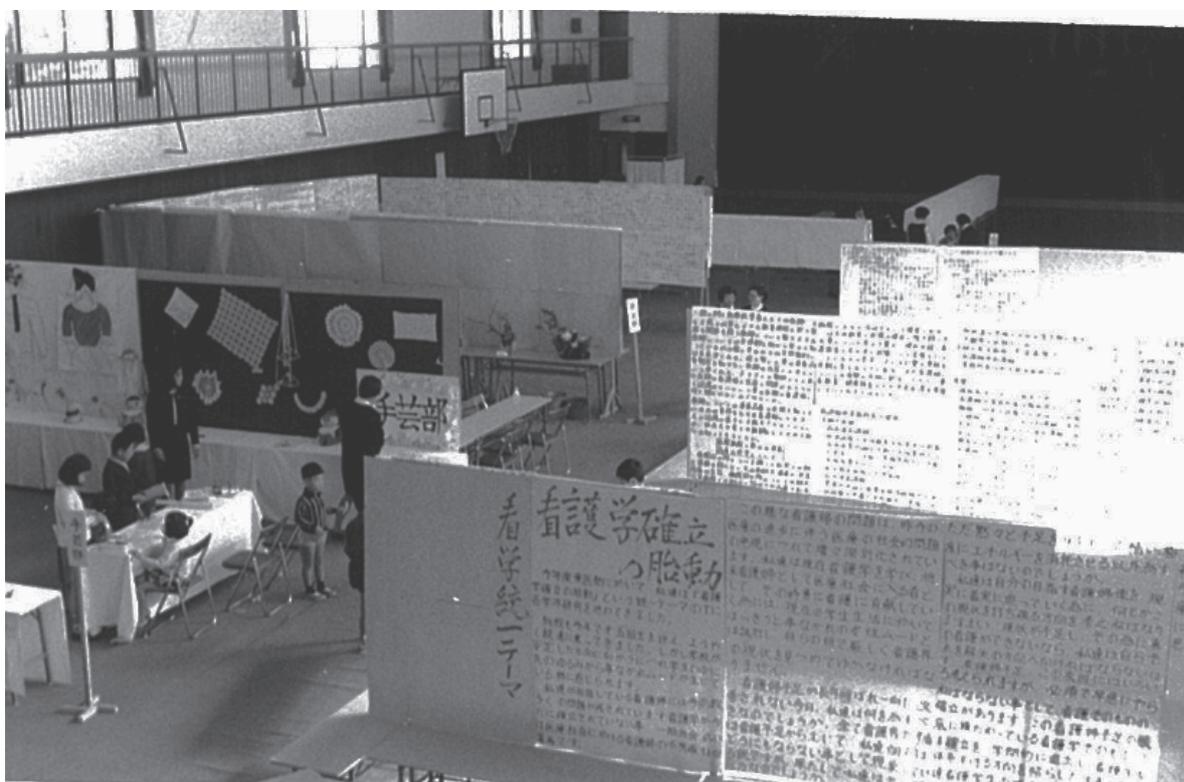
コーラス部?



手芸部を訪れている子ども達



手芸部(昭和 44 年)



記念会館の全てが看護学展示:(昭和 43 年)

9. 運動会



お弁当を食べる高尾寮母さんと学生



下の写真は運動会ではないが、本科寮の屋上でフォークダンスをしている写真が残っている。



10. クリスマス会

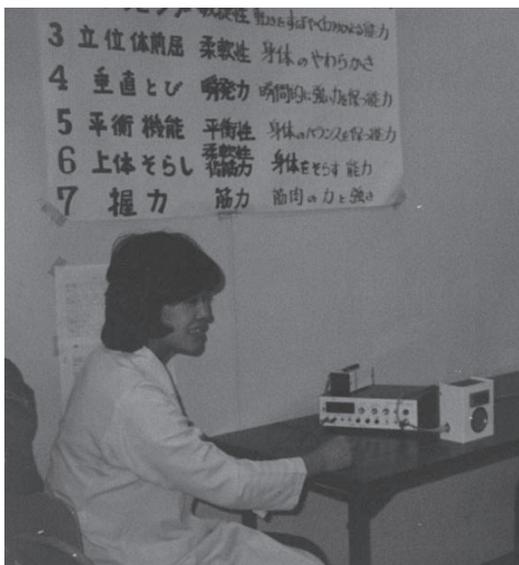


学生と教職員によるクリスマス会
4 回生の頃



先生方と寮母さん

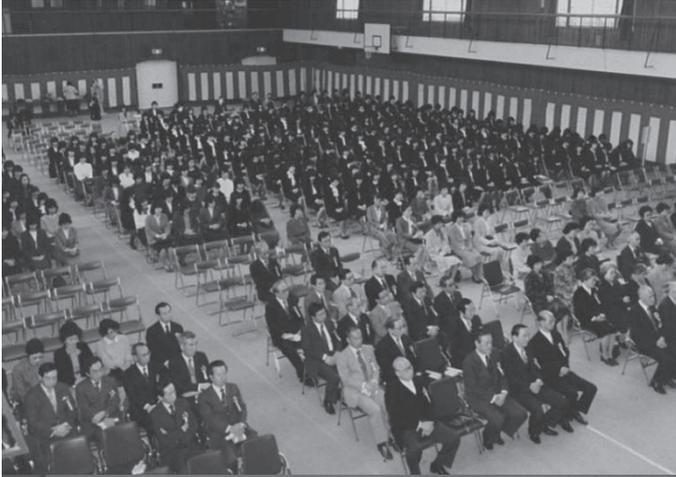
11. 体力測定



12. 記念式典

二十周年記念式典

二十周年記念式典は、昭和 58 年に東京医科大学の記念会館で行われ、地下の学食で祝賀会が行われた。



長村先生から功労者表彰を授与される与謝野先生

右端は、杉浦先生



左端から高尾寮母さん、稲垣理事長・与謝野光元学校長先生



前左から望月元看護部長、三浦・松尾・稲垣先生

三十周年記念式典 東京医科大学病院 6階臨床講堂にて

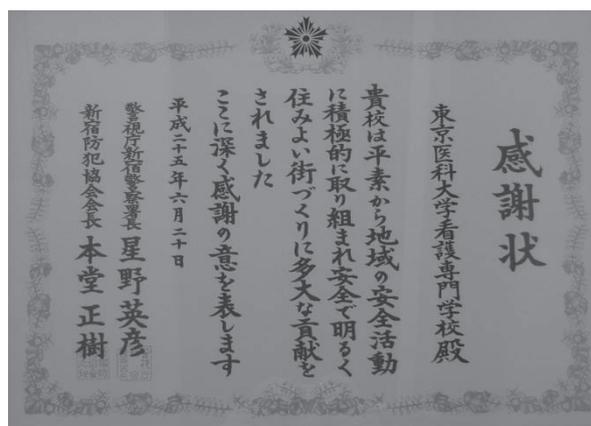


13. 防犯対策とボランティア

近年は、毎年1年生の入学時オリエンテーション期間に、新宿警察署の方に依頼し、防犯対策に関する講義と護身術の実技指導を行って頂いている。防犯対策の講義内容は、通信機器を用いた犯罪に巻き込まれないための対策、キャッチセールス・振り込め詐欺・痴漢予防対策、歌舞伎町問題に対する対策などである。

新宿警察署からは、感謝状も頂いている。

下記写真は、平成25年に東京都庁で行われた警視庁が主催した若者による健全な街づくりのボランティア結成式である。活動内容は、新宿区のゴミ拾いや防犯チラシ等の配付活動を希望学生に募り活動していくというもので、ボランティア結成式には、本校からも1年生が一部参加した。



14. 防災訓練

近年の防災訓練については、1年次、新宿消防署大久保出張所の方にご協力を頂いている。教室で地震・火災予防対策の講義をして頂き、火災を想定して教室から模擬煙を炊いて煙の充満した真っ暗な教室からグラウンドに避難する訓練を実施。避難訓練には、教職員も参加し、非常時に学生の避難・誘導ができるようにしている。避難後は、水消火器を用いて消火器の取り扱いを学生と教職員が学ぶ。

2年次は、本格的な実習が開始される前に、東京医科大学病院の防災設備・対策について病院で防災センター職員から説明を受け、病院の防災設備を見学する。

3年次は、科目外活動としての位置づけではなく、統合分野に含まれる『災害看護』の科目に於いて、新宿区や東京都主催の大規模災害訓練に参加したり、池袋防災館の見学等をし、防災について学生たちが学ぶことになっている。